

1. 略歴

- 1995 年 3 月 東京外国語大学外国語学部ロシア・東欧語学科チェコ語専攻卒業
1999 年 3 月 東京外国語大学大学院地域文化研究科博士前期課程修了
2002 年 6 月 パリ第 4 大学第 3 課程スラヴ研究科 DEA 取得
2003 年 3 月 東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程修了
2003 年 10 月 北海道大学スラブ研究センターCOE 研究員
2004 年 4 月 東京外国語大学大学院国際文化講座助手
2005 年 4 月 武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科専任講師
2008 年 4 月 同准教授
2010 年 4 月 立教大学文学部文学科文芸・思想専修／文学研究科比較文明学専攻准教授
2016 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中東欧文学、比較文学

b 研究課題

20 世紀プラハの文学・美術

c 主要業績

(1) 著書

- 単著 『イジー・コラーシュの詩学』(成文社、2006 年)
単著 『複数形のプラハ』(人文書院、2012 年)
共編著 杏掛良彦・阿部賢一編『バックナリア 酒と文学の饗宴』(成文社、2012)
編著 『チェコ・シュルレアリスムの 80 年』(立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻、2015 年)
編著 Kenichi Abe(ed.) *"Perspectives on Contemporary East European Literature: Beyond National and Regional Frames"* (Sapporo: Slavic Eurasian Research Center, 2016)

(2) 論文

- 「イヴェン・プラトニーの初期詩集について」『SLAVIANA』14 号、1999 年、17-26 頁。
Česká vizuální poezie 60. let, in: Literární noviny, 1999, no. 29, p. 9.
「ネズヴェルの詩集『絶対的な墓掘夫』についての幾つかの考察」『言語・地域文化研究』7 号、2001 年、99-109 頁。
Poezie Jiřího Koláře z hlediska konkrétního umění, in: *Česká literatura na konci tisíciletí II* (ed. D. Vojtěch), Praha: Ústav pro českou literaturu AV ČR, 2001, pp.645-652.
L'élastique de la perspective, *Bohumil Hrabal, palabres et existence*, Paris: Presses de l'Université de Paris-Sorbonne, 2002, pp.35-46.
『プリズム建築』から『ハイボオル的な空間』までの距離、あるいは北園克衛の詩に於ける空間表現について『ALBA (東京外国語大学比較文学研究会)』5 号、2003 年、28 - 39 頁。
「現代チェコ文学における幾つかの傾向」『東欧史研究』第 25 号、2003 年、67 - 73 頁。
「「亡命作家」という眼差し：ミラン・クンデラとリブシェ・モニーコヴァーの事例」『SLAVIANA』19 号、2004 年、39 - 53 頁。
「「亡命」という選択肢：ニコライ・テルレツキーの『履歴書』をめぐる」『スラヴ研究』52 号、2005 年、99 - 117 頁。
「プレドラグ・マトヴェイェーヴィチの《書簡集》について」『現代文芸研究のフロンティア』7 巻、2005 年、170 - 183 頁。
Recepte Nikolaje Terleckého v Čechách, in: *Otázky českého kánonu. Sborník příspěvků z III. kongresu světové literárně-vědné bohemistiky, sv. 1*, Praha: Ústav pro českou literaturu AV ČR, 2006, Pp.414-423.
「〈待合室〉、あるいは難民の滞留空間」『武蔵大学人文学会雑誌』39 巻 1 号、2007 年、1 - 25 頁。
Emil Orlik: malíř z Prahy, dřevorytec v Tokiu. *Cizí, jiné, exotické v české kultuře 19. století*. Praha: Academia, 2008, pp.122-125.

- 「〈プラハ〉という磁場、〈シュルレアリスム〉という磁力」、『ヤン&エヴァ・シュヴァンクマイエル展 アリス、あるいは快楽原則』エスクァイア・マガジン・ジャパン、2007年、118 - 123 頁。
- 「〈往還〉するロマ——〈越境〉の終焉」、『日本学術振興会「人文・社会科学振興のためのプロジェクト」研究領域 V-1 「伝統と越境 とどまる力と越え行く流れのインタラクション」第2 グループ「越境と多文化」研究報告集 6 巻』、2009年、27 - 45 頁。
- 「プラハのアール・ヌーヴォーと〈アルフォンス・ムハ〉」『ユリイカ』2009年9月号、187 - 202 頁。
- 「芸術家の転機、あるいはプラハにおけるミュシャ」、『生誕150年記念 アルフォンス・ミュシャ展』産経新聞、2010年、234-237 頁。
- 「多面的な表現者 カレル・ゼマンの魅力」『チェコ・アニメ もうひとりの巨匠 カレル・ゼマン展』イデッ、2010、14-15 頁。
- 「『夢』が第一の生になるとき——『サヴァイヴィング ライフ』、『ヤン・シュヴァンクマイエル創作術』ACCESS、2011、152-155 頁。
- 「切断される四肢、あるいは世紀末のウィーン」、『ユリイカ (45 巻 4 号)』2013年2月、86 - 90 頁。
- 「Praha, Prag, П p a r a 多言語のプラハ」シンポジウム「世界文学におけるオムニフォンの諸相」報告記録集、2013年、22-36 頁。
- 「言葉」についての「言葉」——社会主義期の文化を語るために、『チェコの映画ポスター』東京国立近代美術館・京都国立近代美術館、2013年、5-8 頁。
- 「ミハル・アイヴァスの小説における「移動」について」、『近代ロシア文学における「移動の詩学」』科研費基盤研究 (B) 研究成果報告書、2014年、1-10 頁。
- 「カレル・タイゲの「内的モデル」考」、『境界を越えて 比較文明学の現在』第16号、2016年、11-25 頁。
- 「カレル・タイゲと雑誌『デヴィエトスィル』、『れにくさ』第6号、2016年、221-235 頁。

(3) 書評

- ミレナ・イエセンズカー『ミレナ 記事と手紙』(琉球新聞、信濃毎日新聞ほか、2009年12月17日配信)
- 奥彩子『境界の作家 ダニロ・キシユ』(図書新聞、第2971号、2010年6月19日)
- イヴァン・ツァンカル『慈悲の聖母病棟』(図書新聞、第3055号、2012年3月24日)
- 池田あいの『カフカと〈民族〉音楽』(図書新聞、第3103号、2013年3月16日)
- M・セリモヴィッチ『修道師と死』松籟社(図書新聞、第3126号、2013年9月14日)
- フランティšek・クプカ『スキタイの騎士』風濤社(図書新聞、第3169号、2014年8月2日)
- ヴィーチェスラフ・ネズヴァル他『性の夜想曲』風濤社(図書新聞、第3222号、2015年9月5日)

(4) 学会発表

- 国内、「J.サイフェルトの “Na vlnach TSF “ における G.アポリネール」(西スラヴ学研究会・研究発表会、東京外国語大学、2000年3月18日)
- 国外、Poezie Jiřího Koláře z hlediska konkrétního umění. (第2回チェコ文学世界会議、プラハ・チェコ文学研究所、2000年6月28日)
- 国内、「《亡命》と《同化》——N・テルレツキーと S・マホーニンをめぐる」(西スラヴ学研究会・研究発表会、東京外国語大学、2004年3月27日)
- 国内、「亡命作家の眼差: ミラン・クンデラとリブシェ・モニーコヴァーの事例」(シンポジウム「現代スラヴの表象」、東京外国語大学、2004年7月27日)
- 国内、「ブレドラグ・マトヴェイェーヴィチの《書簡集》について」(スラブ研究センター・ロシア文化研究シンポジウム「近代ロシア文芸への多面的まなざし」、北海道大学スラブ研究センター、2005年2月20日)
- 国外、Recepte Nikolaje Terleckého v Čechách [チェコにおけるニコライ・テルレツキーの受容](第3回チェコ文学世界会議、プラハ・チェコ文学研究所、2005年6月29日)
- 国内、「条文における《亡命者》——記号としての《東欧》」(ワークショップ「亡命とテキスト生産・消費・増殖」[日本学術振興会「人文・社会科学振興のためのプロジェクト」研究領域 V-1 「伝統と越境——とどまる力と越え行く流れのインタラクション」] 主催、武蔵大学、2005年11月19日)
- 国内、「終着駅を求めて——往還する〈ロマ〉」(ワークショップ「郊外(sub-urbia)」と「暴力」——パリ・プラハ・ブエノスアイレス——)[日本学術振興会「人文・社会科学振興のためのプロジェクト」研究領域 V-1 「伝統と越境——とどまる力と越え行く流れのインタラクション」] 主催、立教大学、2008年7月5日)
- 国内、「ヨゼフ・チャペックと〈真ましい芸術〉」(公開シンポジウム「カレル・チャペック シンポジウム」、北海道大学博物館、2008年10月25日)

国内、「ヤーヒム・トポルの小説における〈移動〉の位相」（日本スラヴ学研究会研究発表会、北海道大学、2012年3月15日）

国内、「愁いに沈む神、そして私：「中欧」という詩学を求めて」（東京外国語大学・総合文化研究所主催講演会「ミラン・クンデラ 主題と変奏」、東京外国語大学、2012年6月30日）

国内、「Praha, Prag, П р а г а 多言語のプラハ」（シンポジウム「世界文学におけるオムニフォンの諸相」、明治大学、2012年12月8日）

国内、「ミハル・アイヴァスの小説における「移動」について」（科研費合同研究会「ロシア・東欧文化と движение：移動・運動・行動」、立教大学、2013年9月15日）

国内、「都市、記憶、移動——21世紀のチェコ文学から」（公開シンポジウム「いま読みたい中東欧の現代文学」日本スラヴ学研究会主催、専修大学、2014年6月14日）

国内、「チェコ・シュルレアリスムの軌跡」（公開シンポジウム「チェコ・シュルレアリスムの80年」、立教大学、2014年7月19日）

国内、「《空いている椅子》、あるいは、リハルト・ヴァイネルの《書かないことの不可能性》をめぐって」（世界文学・語圏横断ネットワーク第一回研究会、立命館大学、2014年9月23日）

国外、「Ozvěny války v próze a publicistice Richarda Weinera」第5回チェコ文学世界会議（チェコ共和国・プラハ）、2015.6.30

国内、「チャペックと戦争」カレル・チャペック生誕125周年・ヨゼフ・チャペック没後70周年記念シンポジウム（東京外国語大学）、2015.10.11.

(5) 啓蒙

「プラハの翻訳者会議」『新潮』、2012年9月号、216-217頁。

「モーリス・ルイスの絵が語りかけるもの」、河出書房新社編集部『村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』をどう読むか』河出書房新社、2013年、67-71頁。

「味噌汁と図像学」『文藝界』2013年7月号／のちに、日本文藝家協会編『ベストエッセイ 2014』光村図書、2014年、59-63頁。

「ニューヨークのボフミル・フラバル」、『れにくさ（現代文芸論研究室論集）』5号、2014年、319-328頁。

「ブルノ＝アンダーグラウンド?」、『すばる』2015年5月号、282-287頁。

(6) 受賞

国内、第一回日本翻訳大賞、パトリック・オウジェドニーク『エウロペアナ 20世紀史概説』（阿部賢一・篠原琢訳、白水社、2014年）

(7) 翻訳

リハルト・ヴァイネル「均衡」、『文学の贈物 東中欧文学アンソロジー』（小原雅俊編、未知谷、2000年、191-204頁）

ズデニェク・プリムス「チェコのブック・デザインにおけるヨーロッパ前衛芸術の考察」『チャペック兄弟とチェコ・アヴァンギャルド』印刷博物館、2003年、62-72頁）

ペトル・クラール『プラハ』（成文社、2006、全206頁）

アヴィグドル・ダガン『古いシルクハットから出た話』（共訳、成文社、2008年、全174頁）

エマヌエル・フリント『プラハ カフカの街』（成文社、2008年、全188頁）

ボフミル・フラバル『わたしは英国王に給仕した』（河出書房新社、2010年、全260頁）

ヴラジミール・ビルグス「認知されながらも、未知の20世紀のチェコ写真」『暗がりのあかり チェコ写真の現在展』（資生堂ギャラリー、2010年、8-16頁）

ミハル・アイヴァス「もうひとつの街」、高野文緒編『時間はだれも待ってくれない 21世紀東欧SF・ファンタスチカ傑作集』（東京創元社、2011年、95-112頁）

『ジョセフ・クーデルカ プラハ侵攻 1968』（平凡社、2011年、全294頁）

バヴェル・ブリッチ『夜な夜な天使は舞い降りる』（東宣出版、2012年、全216頁）

ラジスラフ・フクス『火葬人』（松籟社、2012年、全224頁）

ミハル・アイヴァス『もうひとつの街』（河出書房新社、2013年、全216頁）

ボフミル・フラバル『剃髪式』（松籟社、2014年、全166頁）

パトリック・オウジェドニーク『エウロペアナ 20世紀史概説』（共訳、白水社、2014年、全160頁）

ミハル・アイヴァス『黄金時代』（河出書房新社、2014年、全352頁）

ヴィエラ・リンハルトヴァー「あらゆることにまつわる話」、『すばる』（2015年3月号、224-241頁）

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、東京外国語大学、「チェコ語」「ヨーロッパ文学」、2005.4～

非常勤講師、明治学院大学、「西洋文学」、2010.4～2011.3

非常勤講師、東京大学、「チェコの言語と文化」、2011.10～2012.3

非常勤講師、福州大学（中国）、「日本の現代文学」、2014.10

非常勤講師、大阪大学、「中欧文化論」、2015.10～2016.3

特別講演「チェコ文学の最前線」（チェコセンター東京、2009年10月16日）

特別講演「『小説の愉しみ: ボフミル・フラハル編』」（チェコセンター東京、2010年11月18日）

特別講演「"Moravians - Morawaaan !"あるいは、ヤナー・チェクをめぐる一考察」（チェコセンター東京、2010年12月3日）

特別講演「チェコ文学の翻訳——過去と現在」（公開シンポジウム「世界文学における“チェコ”と“日本”——翻訳者の視点から——」チェコ共和国大使館・チェコセンター東京・立教大学文学部文芸・思想専修主催、立教大学、2013年9月26日）

特別講演「複数形のプラハ——世紀末の建築と美術」（日本チェコ友好協会、芸術家の家、2013年11月7日）

特別講演「社会主義時代におけるチェコ芸術」（「チェコの映画ポスター」展、京都国立近代美術館、2014年4月6日）

特別講演"Preklad jako hybridní proces: Česká literatura v japonském překladu"（パラツキー大学哲学部、チェコ共和国・オロモウツ、2015年5月15日）

特別講演「世界は言葉でつながっている 翻訳現場の最前線」（静岡県図書館大会、2015年11月9日）

(2) 学会

国内、日本スラヴ学研究会、企画編集委員長、2015.6～